

# 形容詞残置名詞省略に対するカートグラフィー分析

鈴木舞彩

## 1. 導入

(1)に示されるように、通常、英語の形容詞の順序は固定されている。

- (1) a. I bought a red nylon shirt yesterday.  
b. ? I bought a nylon red shirt yesterday.

しかしながら、(2)に示されるように、(1)の *nylon* が対比焦点の解釈を受ける場合、*nylon* は *red* に先行できる。

- (2) Tom bought a red cotton shirt, and I bought a nylon red shirt.

(3)に示されるように、*nylon* が情報焦点の解釈を受ける環境においても同様に、*nylon* は *red* に先行できる。

- (3) What kind of red shirt did you buy yesterday? - I bought a nylon red shirt yesterday.

さらに、(4)が示すように、形容詞が対比焦点の解釈を受ける場合、形容詞残置名詞省略が可能である。

- (4) Knut wanted the French caterers, but I wanted the Italian ~~caterers~~. (Payne and Huddleston (2002: 417))

一方で、(5)が示すように、形容詞が情報焦点の解釈を受ける場合には、形容詞残置名詞省略が不可能である。

- (5) What kind of shirt did you buy yesterday? - \* I bought a blue ~~shirt~~.

本論文は、(2)と(3)が示す形容詞倒置の可否に関する二種類の焦点間の類似性と、(4)と(5)が示す形容詞残置名詞省略の可否に関するそれらの焦点間の違いを、カートグラフィーの観点から説明することを目標とする。

## 2. 先行研究とその問題点

Corver and van Koppen (2009)は、主にオランダ語のデータを基にして、名詞句内省略が対比焦点によって認可されると論じている。その提案の下で、形容詞残置名詞省略は以下のように派生される。

- (6) [DP D [FocP AP<sub>[+Op]</sub> [Foc' Foc<sub>[E, +Op]</sub> [~~XP~~ AP<sub>[+Op]</sub> XP NP]]] (cf. Corver and van Koppen (2009: 18))

(6)において、対比焦点の解釈を受ける AP は FocP 指定部へ移動し、FocP 主要部と [+Op] 素性に関して一致する。結果として、FocP 主要部は E 素性 (cf. Merchant (2001)) を伴うことができるため、それによって補部の XP が PF で削除され、形容詞残置名詞省略が派生される。

Corver and van Koppen (2009)では、対比焦点の解釈を受ける形容詞の移動可能性が形容詞残置名詞省略の認可と関連付けられている。しかしながら、情報焦点の解釈を受ける形容詞もまた前置できるにもかかわらず、そのような形容詞は形容詞残置名詞省略において残余要素になることができない (cf. (3), (5))。したがって、Corver and van Koppen (2009)の分析は、(4)と(5)に示した形容詞残置名詞省略に関わる焦点間の違いを捉えることができない。

## 3. 提案

第一に、本論文は Cruschina (2011)によって仮定される CFocP/IFocP を伴うカートグラフィー構造と Totsuka (2013)による TopP を Phase とする提案を名詞句領域に拡張する (cf. (7))。

- (7) [DP D [TopP Top ( [CFocP CFoc [TopP Top ( [IFocP IFoc [NP AP [NP]]]]]]]]  
Transfer Domain Transfer Domain

第二に、Tanaka (2011)による修飾関係に関する仮定を形容詞に拡張し、NP とそれを修飾する形容詞がそれらの修飾解釈のために同一の転送領域になければならないと仮定する (cf. (8))。

- (8) The modification interpretation is formed within a single transferred domain. (Tanaka (2011: 183))

第三に、Tanaka (2011)は Fox and Nissenbaum (1999)の仮定に基づき、付加詞 PP が外置される場合、移動ではなく当該の位置に直接併合されると仮定している。本発表は、形容詞もまた付加詞であるため、それが CFocP や IFocP に位置するとき、それらの位置に直接併合されると仮定する。

最後に、Johnson (2001)による VP 省略の VP 話題化分析を拡張して、NP が TopP へ移動して PF で削除された結果、名詞句内省略が派生されると主張する (cf. (9))。

- (9) [TopP ~~NP~~ [Top Top ... [tNP]]]

## 4. 分析

3節の提案を用いて、(1)から(5)の例に説明を与える。形容詞の語順に制約があるということを考慮すると、動機なく *nylon* が *red* に先行することはできない。(1a, b)の名詞句の構造はそれぞれ(10a, b)に示される。

- (10) a. [NP red [NP nylon [NP]]]  
 b. \* [NP nylon [NP red [NP]]]

(2)に示される *nylon* が対比焦点の解釈を受ける場合に *red* と倒置できるという事実は、*nylon* が(11a, b)のように CFocP 指定部に直接併合すると分析することにより説明される。(11a)は TopP が投射しないパターン、(11b)は TopP が投射するパターンを示す。

- (11) a. (... [DP a [CFocP nylon [CFoc' CFoc [NP red [NP shirt]]]])  
 b. (... [DP a [CFocP nylon [CFoc' CFoc [TopP red shirt [Top' Top ([t<sub>NP[red shirt]]])]]]])</sub>

(3)に示される *nylon* が情報焦点の解釈を受ける場合も *red* と倒置できるという事実は、(12)のように、*nylon* が IFocP に直接併合すると分析することにより説明される。

- (12) (... [DP a [IFocP nylon [IFoc' IFoc [NP red [NP shirt]]]])

これらの分析の下では、(4)の対比焦点が関わる形容詞残置名詞省略の例は(13)のような構造を持つ。

- (13) (... [DP the [CFocP Italian [CFoc' CFoc [TopP ~~caterers~~ [Top' Top ([t<sub>NP[caterers]]])]]]])</sub>

↑ ✓ modification interpretation

(13)では、*Italian* が CFocP 指定部に併合し、*caterers* が TopP 指定部へ移動して削除操作の対象となることによって、形容詞残置名詞省略が派生される。この時、*Italian* と *caterers* は同一の転送領域内にあるため、修飾関係は適切に形成される。一方で、情報焦点が関わる(5)の例は(14)のような構造を持つ。

- (14) (... [DP a [TopP ~~shirt~~ [Top' Top ([IFocP blue [IFoc' IFoc [t<sub>NP[shirt]]])]]]])</sub>

↑ → Modification interpretation cannot be formed.

(14)では、*blue* が IFocP 指定部に併合し、*shirt* が TopP 指定部へ移動することによって削除操作の対象となっている。しかしながら、TopP 主要部の補部である IFocP が転送されるため、*blue* と *shirt* は同一の転送領域内に属することはできず、修飾関係が適切に形成されない。したがって、(5)のような形容詞残置名詞省略は許されない。

本論文の分析は、Nominal Gapping に関する付加詞 PP (e.g. (15))と補部 PP (e.g. (16))の対比も説明できる。

- (15) Bill's wine from France and Ted's ~~wine~~ from California cannot be compared. (Jackendoff (1971: 29))

- (16) ?\* Ormandy's recording of Ives' 1<sup>st</sup> on Columbia and Von Krajan's ~~recording~~ of Mozart's 40<sup>th</sup> on Angel can be recommended none too highly. (Jackendoff (1971: 30))

付加詞 PP は DP 内部の NP も修飾できると仮定する。(15)と(16)の名詞句はそれぞれ(17a, b)の構造を持つ。

- (17) a. [DP DP's [CFocP [CFoc' CFoc [TopP ~~NP wine~~ [TopP' Top [t<sub>NP</sub>]]]]] from California]]  
 b. [DP DP's [CFocP [CFoc' CFoc [TopP ~~NP recording of Mozart's 40<sup>th</sup>~~ [TopP' Top [t<sub>NP[NP PP]]]]]] on Angel]]</sub>

(17)では、付加詞 PP は直接 CFocP 指定部へ併合するが、補部 PP は NP 内に生成され、N と共に TopP 指定部へ移動しなければならない。結果として補部 PP は削除操作の対象となり、残余要素になることはできない。

## 5. 結論

本論文は、Cruschina (2011)と Totsuka (2013)に基づき、名詞句領域におけるカートグラフィー構造を提案するとともに、Tanaka (2011)による修飾解釈に関する仮定を形容詞に拡張した。さらに、Johnson (2001)による VP 省略の VP 話題化分析を名詞句内省略に拡張した。結果として、本論文は形容詞前置に関する事実を説明し、形容詞残置名詞省略の可否に関する焦点間の対比は、修飾関係形成の(不)可能性に起因するものであると結論付けた。帰結として、補部 PP と付加詞 PP の Nominal Gapping の可否に関する違いが説明された。

## 参考文献

- Corver, Norbert and Marjo van Koppen (2009) "Let's Focus on Noun Phrase Ellipsis," *Groninger Arbeiten zur Germanistischen Linguistik* 48, 3-26. / Cruschina, Silvio (2011) *Discourse-Related Features and Functional Projections*, Oxford University Press, Oxford. / Fox, Danny and Jonathan Nissenbaum (1999) "Extrapolation and Scope: A Case for Overt QR," *WCCFL* 18, 132-144. / Jackendoff, Ray (1971) "Gapping and Related Rules," *Linguistic Inquiry* 2, 21-35. / Johnson, Kyle (2001) "What VP Ellipsis Can Do, and What It Can't, but not Why," *The Handbook of Contemporary Syntactic Theory*, ed. by Mark Baltin and Chris Collins, 439-479, Blackwell, Oxford. / Merchant, Jason (2001) *The Syntax of Silence: Sluicing, Islands, and the Theory of Ellipsis*, Oxford University Press, Oxford. / Payne, John and Rodney Huddleston (2002) "Nouns and Noun Phrases," *The Cambridge Grammar of the English Language*, ed. by Rodney Huddleston and Geoffrey K. Pullum, 323-523, Cambridge University Press, Cambridge. / Tanaka, Hiroyoshi (2011) "On Extrapolation from NP Constructions: A Phase-based Account," *English Linguistics* 28, 173-205. / Totsuka, Masashi (2013) "On Phase Head in Split CP Hypothesis," *English Linguistics* 30, 204-215.